

平成25年度「男女共同参画推進フォーラム」ワークショップ 参加者へのメッセージ

WS NO	団体・グループ名	タイトル	参加者への呼びかけ文
1	つるがしま落語会	落語と歌で楽しく考える男女共同参画～メディアが吹かせる男への「追い風」と「向い風」	男女共同参画を取り巻くキーワードの1つに、「メディア・リテラシー」があります。これ自体の意味は、メディアの情報を主体的に読み解く能力、メディアにアクセスし活用する能力、メディアを通じてコミュニケーションする能力などとされていますので、男女共同参画だけに関係する言葉ではないようです。ではなぜ、男女共同参画の関連用語として「メディア・リテラシー」が登場するのでしょうか。このワークショップでは、古典落語や流行歌に登場する男と女を、対等な関係に置き換えてみることで、メディアが男性に吹かせていた「仕事」への追い風、「家庭」からの向い風に気づき、「男女共同参画に必要なメディア・リテラシー」とは何かを明らかにすることを目指します。
2	劇団プレイバックーズ	プレイバックシアターでみる「私たちのワーク・ライフ・バランス」	現在、ワーク・ライフ・バランスの実現を目指して、様々な取組がされていますが、私たちの周りは、どのような状況でしょうか？ 即興劇「プレイバックシアター」を用いて、私たちのワーク・ライフ・バランス、ストーリーに耳を傾けてみましょう。
3	甲府市男女共同参画推進委員会	甲府市は男女共同参画都市宣言をしました。その心は？	甲府市は平成25年6月に「男女共同参画都市宣言」をしました。今なぜ都市宣言なのか、その心は？ 宣言までの経緯と宣言へ如何に魂を入れるかなど、今後の課題を報告し他都市の皆様と意見交換をいたします。
4	一般社団法人日本ベビーダンス協会	北海道から沖縄まで、今人気のイクメン企画はコレ！『男性の育児参画講座のつくり方』	初めての父子での留守番で、父のアイデアがヒントになって生まれたベビーダンス。ベビーダンスを体験すれば、父が自然に育児に参画でき、親子と家族の絆が深まります。ベビーダンスで赤ちゃんはニコニコ。パパには、具体的な、赤ちゃんとの遊び方・あやし方となり、さらには、父親自身のストレス緩和に役立ち、身体感覚も磨かれます。ベビーダンスのパパクラスの参加者からは、「初めてママなしで子どもと関われた。赤ちゃんとの留守番も怖くなくなった」という声や、「パパがベビーダンスクラスに通うようになってから積極的に育児や家事に関わってくれるようになった」というママからの嬉しい声も寄せられています。パパの子育て、まずはベビーダンスから！ 一般社団法人日本ベビーダンス協会は家族円満の笑顔に貢献します。
5	NPO法人SEAN	デートDVと若者の性意識～恋人役割と性の商品化に対する若者約5,000人の意識から～	若者の恋人間の暴力や支配の問題が後を絶たず、年々デートDV予防教育のニーズが高まってきています。SEANでは2006年にデートDV予防教育の最初の依頼がありました。それ以降、中高～大学生を対象にした予防教育の依頼が増えてきており、現在では未就学児や小学生を対象に、親しい人と非暴力な関係をつくっていくための授業を請負い、教材開発するなど積極的に取り組んできています。今回のワークショップでは、これまで中学生～大学生約5000人に授業を実施する前にとってきたアンケート意識調査を取りまとめ、若者たちのカップル間における性役割の問題性について参加者とともに考えます。何を予防教育として伝えていくべきなのか、皆さんと一緒に深めていきたい思いますので、たくさんのご参加をお待ちしています。
6	NPO法人ライフライツ・インパクト東京	「NO！」と言える、私でありたい。～女性のためのエンパワメントワークショップ～	女性の自尊感情を高め、本来持っている力を取り戻すための、エンパワメントプログラムです。暴力や侵害に対して「NO！」と言うこと。その権利と価値が自分にあると信じること。自己決定の一番大事なところは、「NO」から始まります。「NO！」と主張することは、安全に安心して生活するだけでなく、主体的に生きる女性に欠かせないスキルです。内容は、レクチャーとレッスン。レクチャーでは、暴力について／加害者像について／自尊感情について等を学び、知識を力に変え、自分を大切に感じる感覚を養います。レッスンでは、ターゲットにされない立ち方や歩き方／NOの言い方／声の出し方等を実際に体験しながら学び、自分本来の力を感じ、スキルを身に付けて自信を得ます。
7	NWECアーキビストの会	「自分たちの記録は自分たちで残す～記録保存の現場からの声」	運営者は、NWEC女性情報アーキビスト養成研修講座修了者や、地域の女性センター等で働く人たち、NWECの活動に興味を持っている人たちです。いま、情報があふれ、錯綜するなかで、後世に残すべき資料とはいったいどのようなものだろうか。歴史的資料、その中でも民衆史、そして特に女性を主体的にとらえた史料（語りや映像なども含めて）は歴史資料として体系的には保存されていないのが現状です。しかし、苦難を経て21世紀の大きな転換期を迎えようとするいま、次世代がさまざまな判断を下す際のよりどころとなる材料として、残したいものはすべて残しておくことが求められているといえましょう。地域や現場での実践報告を聞き、そこから見えてくる課題などを出し合っ、より良い資料保存環境整備への提言をまとめるのがこのWSです。

※各団体のワークショップの実施時間、場所については別紙ワークショップ一覧をご覧ください。

平成25年度「男女共同参画推進フォーラム」ワークショップ 参加者へのメッセージ

WS NO	団体・グループ名	タイトル	参加者への呼びかけ文
8	パパの育児休業支援センター	男性にとっての男女共同参画と看護の視点～パパの育児休業は特別なことじゃない～	「男性の育児休業取得」が進みません。厚生労働省の調査によると、約3割の男性が育児休業を取得したいと希望している一方で、実際の取得率は2.63%にとどまっています。また、日本の男性が子育てや家事に費やす時間は先進国中最低い水準にあり、そのことが女性の継続就業等にも悪影響を与えていると指摘されます。男性が子育てに参加しやすい雇用環境の実現をめざした改正育児・介護休業法が施行されて3年——法制度が整っても、職場の管理職や当事者の意識が変わらなければ、取得率の上昇は見込めないでしょう。男性も仕事と生活を両立させ、男女が互いに人権を尊重し、個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現に向けて、より積極的に男性が子育てに関わっていくための方策を、「看護」という新たな視点を組み入れながら一緒に考えてみませんか？
9	NPO法人マミーズ・ネット	子育て支援、変えるなら今でしょ！～男女共同参画の視点で地域の子育てを支える～	少子高齢社会となった日本。「子育て支援」として様々な取組が行われています。しかし、その中にしっかりと男女共同参画の視点はあるのでしょうか？「母親一人であまり子育てできるための支援」が求められる支援ではないはず。18年に及ぶ地域での子育て支援の実践から、強く感じています。まずは自分たちでできることから始めようと、昨年「オーダーメイドの子育て支援」を始めました。出産後も仕事を続けるためにはどうすればいいのかわからない初めての育児、どんな支援があれば安心してできるのか、それぞれの事情に応じた必要な支援策を利用者とともに考え、公的なもの民間のものとの区別なく紹介していく仕組みです。この実践「子育てinfo」の事例発表を行います。その後、参加者の皆さんとともに地域の中で必要と思われる「男女共同参画の視点がある子育て支援策」を考えあてていきます。子育て支援、変えるなら今でしょ！
10	特定非営利活動法人みんなのまち草の根ネットの会	社会的弱者を支える”まさか”のときにつながる「地域防災ネットワーク」	埼玉県草加市内で、行政をはじめ、町会連合会、社会福祉協議会、社会的弱者を支える市民団体、青年会議所など、幅広く、深くつながり、社会的弱者を支える「地域防災ネットワーク」づくりをはじめ2年になります。そこでは女性の視点を入れた活躍で男性も元気に多く参加しています。活動を通して得たこと、問題点など、大切な地域のことを来場の皆さんと語り合ひましょう！
11	NPO法人参画プランニング・いわて	「大切なわたし、大切なあなた～大学生が伝えるデートDV予防啓発～」	NPO法人参画プランニング・いわては、盛岡市の委託を受け配偶者暴力防止事業を実施しています。その事業の中で、中学生や高校生にデートDV予防講座を実施するため、ユースリーダーとなる大学生を育成し5年になります。ユースリーダーは、デートDVについて学んだ後、専門家とともにオリジナルプログラムを開発し専門家とともに中学校や高等学校等で予防講座を実施しております。年代に近い大学生だからこそ、中学生にデートDVの被害者にも加害者にもならないようにとの願いが、中高生の心に響いています。今回のワークショップでは、大学生が開発したプログラムを紹介するとともに、若者の間で起きているデートDVについて考えていきます。
12	特定非営利活動法人リソース・エンパワメント・ネットワークREN	挑戦しました！ 市民団体が男女共同参画センターの指定管理に応募してみました。	いま、支え合いと活気のある社会をつくる「新しい公共」の担い手として、市民団体の参画が期待されています。男女共同参画センターにおける指定管理者制度を導入する動きも「新しい公共」の実現に向けた取り組みの一つと言えるでしょう。はたして、男女共同参画センターにおける指定管理者公募のしくみは、市民団体にとって開かれたもの、挑戦しやすいものになっているのでしょうか。男女共同参画センター指定管理者の募集に応募した市民団体の経験を報告していただきます。
13	育自倶楽部	悩みの多い時代、ご自身の問題解決力を高める方法を考えてみよう～MYリソースマップをつくって、問題への対処力をアップしよう～	経済が好転しつつあると言われながら、なかなか実感が湧かない重苦しい環境にあって、私達は仕事や家事や人とのやり取りなどにおいて、日常的にストレスフルな様々な場を味わいながら活動しています。元気を売りにしていても、ちょっとしたきっかけで大きく落ち込んだり、悩んで堂々巡りしたり、そんな状況に陥ることも、もはや特別ではないように感じられます。そんな時、問題解決の糸口を自ら見出すことはとても大切です。そこで、誰もが使えてそれなりの効果が期待できる問題解決お助け法を、ワークを通してご自分のものにしてみませんか？今、問題を抱えていないあなたにも気づきが多い時間となりますので、お気軽にご参加ください。
14	岩手大学男女共同参画推進学生委員会	デートDV freeキャンパスづくりプロジェクト～デートDV 予防を知って安全で楽しい大学生活にしよう～	デートDVは私たちにとって身近な問題であるとともに、全国的に認識が広がっている社会問題の一つです。私たち、岩手大学男女共同参画推進学生委員会(GESCO)でこれまで行ってきた調査(学内相談窓口や学生へのヒアリング)においても、岩手大学生のデートDVに対する認識は高くないと考えられます。そこで、私たちは現状を変えることを意図して、学内で実施している調査の結果や外部から講師を招いた時の参加学生の反応・意見などを報告し、会場の皆様とひろく、意見交換を行いたいと思います。デートDV問題の解決のために、ぜひ、ご参加ください。

※各団体のワークショップの実施時間、場所については別紙ワークショップ一覧をご覧ください。

平成25年度「男女共同参画推進フォーラム」ワークショップ 参加者へのメッセージ

WS NO	団体・グループ名	タイトル	参加者への呼びかけ文
15	均等待遇アクション21	均等法を男女雇用平等法に！	均等法施行から27年が経過しましたが、残念ながら日本のジェンダー平等指数は135カ国中101位です。国連女性差別撤廃委員会(CEDAW)や国際労働機関(ILO)はもちろん、世界経済フォーラムからも女性の差別的状況の是正が求められています。今日本の働く女性の54%が非正規労働者です。正規労働者の男女賃金格差は男性100:女性70、非正規労働者では50にも及びません。女性労働者の4割が年収200万円以下です。これでは人らしく生きることが困難です。少子化が問題視されていますが、男性にも非正規が増え、若い人々は希望をもつことができません。2007年に改定された均等法の見直し論議が昨年秋より厚労省労働政策審議会雇用均等分科会で始まりまして、今度こそ抜本的な改正で男女平等を進めるため、皆さんに関心を寄せて頂きたくワークショップを企画しています。均等法改定ポイント、職場の実態、雇用均等分科会での議論状況を紹介します。多くの皆様のご参加をお待ちしています。
16	公益財団法人 日本女性学習財団	「学びがひらく」@NWEC	男女共同参画社会実現のために、社会・地域・家庭の中でさまざまな困難や課題を乗り越えてきた過程をふり返った実践・研究レポートを募集し、優秀作を表彰する「日本女性学習財団賞」。前身である「女性の学習の歩み」実践・研究レポート募集から数えて20数年。この間の400篇に届こうという応募レポートには、「学び」が個人やグループを次のステージへ進ませる力となったこと、そして「書くこと」によるふり返りが、来た道の承認と行く道への確信を生み、周囲をもエンパワーしていった姿が記されています。「学び」、そして「書くこと」が女性の生涯にわたるキャリア形成を根幹で支える力となることを、「日本女性学習財団賞」レポート募集事業を通して考えあいましょ。
17	講座企画塾 吉田清彦	行列ができる講座の企画と、思わず手に取るチラシの作り方 人が集まる男女共同参画講座の企画・運営で「地域力」アップを！	男女共同参画に関する講座を企画するが、なかなか人が集まらない。そんな経験をしたことはありませんか。全国各地の男女共同参画センターなどで豊富な経験と実績で評判の講師が、数多くの事例をもとに、テーマの決め方、タイトルのつけ方、開催日時の設定、チラシのつくり方や募集方法など、魅力的な講座を作るために必要なことすべてを具体的に解説します。実際に応募者を多く集めた全国各地の男女共同参画講座の事例や、チラシの手直しbefore・after事例も豊富に紹介しますので、明日からの仕事や活動にすぐに役立ちます。希望者にはチラシの添削もしますので、ご希望の方は事前にメール(ptokei04@s5.dion.ne.jp)でお申し込みください(先着5名まで)。
18	佐賀大学	佐賀大学生カップルにみる「男女共同参画」— 履修学生によるインタビュー調査の報告	佐賀大学文化教育学部専門科目「男女共同参画調査実習」履修学生によるインタビュー調査「佐賀大学生にみるカップルのあり方」調査結果報告ワークショップです。それぞれの学生が調査にあたって仮説を提示し、調査によって得られた結果からその仮説を検証するのですが、この調査のユニークなところは、さらにその仮説と調査分析を踏まえた上で学生オリジナルの「佐賀大学生カップル物語」を作成し、発表します。この「ストーリー作成」は、インタビューを実施するに当たり、より具体的なイメージを持って仮説を立て、さらにその「ストーリー」に必要な「データ収集」や「質問事項」を明確にさせる目的で実施したのですが、この実習で「調査(現状分析)と創作(イメージーション)」という両極端な作業の両立を目指します。そしてこの二つの「(学)力」は、現代社会が大学生に一番求めている「学力」でもあります。どうぞ皆さんご参加ください。
19	埼玉県 男女共同参画推進センター With You さいたま	(仮題) 男性向け事業について考える「メンズプロジェクトとして何ができるか」情報・意見交換会	男女共同参画センターや市町村が行う男女共同参画関連講座への参加は女性に偏りがちです。男性を呼び込むためにはどうしたらいいか?「育メン」「ソバ打ち」以外に何ができるか?今年度、当センターでは新たな利用者の獲得をめざし、男性(特に20~40代の若い男性層)の来館増を目標に、地域で活動する若い男性をメンバーとする「メンズプロジェクト」を立ち上げました。そのメンバーの1人をファシリテータとして、男女共同参画推進センターや市町村が男性向け事業を行うにあたり何ができるか、何をすべきかについて、各年齢層ごとに抱えているものを分析しながら、意見・情報の交換を行います。既に男性向け事業を実施しているセンター・行政の方、これから取り組もうとしている方、センターや行政にこういったことをやって欲しいというご意見がある方、全国から多くのご参加をお待ちしています。
20	F・Fネットあきた北	『あめで参画、歩いてサンキュー』地域ネットワーク実践行動から全国展開に向けて	秋田から再来!『あめで参画、歩いてサンキュー』。これまで地域で様々な取り組みをしましたが「打てど響かぬ推進活動」。そこから見えたのは四角張った男女共同参画の言葉を「感謝・優しさ・思いやりの気持ち=ありがとう!」の言葉に変えることでした。そこで、鉛と黄色い旗をツールに街中に飛び出し、地域の一人ひとりと言葉を交わし、新しい切り口で実践活動を行いました。今回は皆さんと共にこの「黄色い旗プロジェクト」の全国展開の可能性を探りたいと思います。男女共同参画を一步前進するためのヒントがここにあります。このワークショップは秋田弁で進めます。方言を使うことにより、男女共同参画は難しいと感じる方の抵抗感をなくす効果もあります。今回は秋田弁がわからない方のために、ユニークな初級「秋田弁講座」も用意しています。「なんもしょいぐねえってば、おでってける〜」へば、まんつ、待ってらから。(「何も恥ずかしがらないで来て下さいね〜」それじゃ、待ってます。)

※各団体のワークショップの実施時間、場所については別紙ワークショップ一覧をご覧ください。

平成25年度「男女共同参画推進フォーラム」ワークショップ 参加者へのメッセージ

WS NO	団体・グループ名	タイトル	参加者への呼びかけ文
21	女性としごとの未来研究会	男女平等の原点—戦後の紙芝居と幻燈を見る	戦後、日本は民主主義と平和、基本的人権を提唱し、新しい出発の機運に燃えていました。その1950年代に相次いで旧労働省により製作された紙芝居と幻燈には、戦後の日本女性の姿や社会意識が克明に描かれています。これらの作品はまさに男女平等政策の原点でした。暗い時代に後戻りしそうな気が漂う、今だからこそ、皆さん必見です!
22	女性労働問題研究会	職場における安全・安心の確保のために	最近の職場は、セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント、パワー・ハラスメントなどが多いとされ、メンタル不全での休職者も増加しています。労働契約法第5条は、使用者の義務として職場の労働者の安全に配慮することを定めていますし、何より女性の能力発揮や就業継続のためには、安心して働ける職場環境が重要ではないでしょうか。職場における安全・安心の確保のために何が必要かを考えます。
23	小林敦子	データ解析に基づいた組織の中のジェンダー・ハラスメント防止講座	組織で働く女性のみなさん。「女性ならでは」という言葉に縛られてはいませんか?そして経営側のみなさん。そんな女性たちの職域を固定し、可能性を狭めていませんか?職業人としてのしあわせは、仕事をとおして自分が成長できることです。そして組織は社員全員が自身の能力を最大限に活用し、仕事に貢献してもらいたい。でも実際にはそうなっていないのが現状です。そんなみなさんの悩みにお答えし、一緒に打開策を考えていきたいと思っています。
24	青森県男女共同参画センター指定管理者ASTAC・G	DVD「安心できる避難所づくり」を活用して、男女共同参画社会づくりにつなげる	東日本大震災以降、避難所運営や復興において男女共同参画の視点があまりなかったことにより、多様な人たちが劣悪な環境の中で避難所生活を送ってきました。私たちは東日本大震災の避難所生活でどんな問題や課題があり、その課題解決のために必要な具体策を避難所体験(ワークショップ)を通して実践し、1冊のハンドブックとDVDにまとめ、全国の自治体や男女共同参画センター、自主防災会等で活用していただいております。ご覧になった多くの方から、DVDを見ることで、防災のみならず、男女共同参画がいかに自分たちの生活とつながっているのかが理解できたという感想も多々いただきました。又エックフォーラムでは、DVDの視聴とともに、DVDを活用しての防災教育のプログラム案の提供をしながら、防災・復興と男女共同参画について考えていきます。
25	全国フェミニスト議員連盟	行政・議会・地域のネットワーク推進と男女共同参画	男女共同参画に資する政策づくりをどのように進めていってほしいのでしょうか。地域の市民団体の声を、政策課題としていくためには、行政関係者や議会との連携が不可欠です。通称使用実現やみなし寡婦控除適用、子宮頸がんワクチンへの対策など、具体的な事例をテーマに、それぞれの政策形成過程の事例検討をおこなうことで、これからの男女共同参画の推進のために必要な政策形成過程を展望します。女性管理職が増えても、それぞれの人がジェンダーに敏感な視点を持たなければ、男女共同参画の推進にはなりません。議会においても同様です。女性議員を増やそう、というキャンペーンは、同時に、女性議員を増やして、男女がともに、生きやすい社会をめざす、という共通の目標実現が必要です。だからこそ、どういったやり方で、行政・議会・市民団体が連携していくのか、その土壌をつくっていくのか、これまでに実現された政策や実践活動を検証することで、今後のとりのみのヒントとします。
26	特定非営利活動法人全国女性会館協議会	東日本大震災から、2年。被災地派遣相談員を経験してみえてきたこと ～災害後における男女共同参画センターの役割と課題～	東日本大震災から2年、被災者に日常は戻ったか? 相談内容からみる被災地の現状と課題について、内閣府主催「東日本大震災被災地における女性の悩み・暴力相談事業」で被災地相談窓口へ派遣された全国女性関連施設の相談員や地元支援者が「被災地の今」を報告します。そして、参加者の皆さんと共に、①今後の被災地支援のあり方、②いつ自分たちのまちで災害が起きるかわからない今、災害時における相談事業の役割とネットワークについて考えていきたいと思えます。
27	東京都大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」	いつか来るその時のために 被災地から学び、いまできること～1通のバブコメから防災委員に～	3. 11を機に被災地の女性センターと連携しながら、災害・防災に「女性の視点」がいかに必要かを学びました。これを踏まえて、大田区の地域防災計画やエセナおおたの災害時の対応などを検証すると、女性の視点が何も無いことに気づきました。その後の地域防災計画のバブコメ募集時に「女性の視点を盛り込むよう」センター職員一人ひとりが提言し、女性の視点や、エセナおおたの位置づけなどが初めて計画書に盛り込まれました。そのうえ、女性ゼロだった防災会議に5名の女性が区長から任命されました。NPOが管理運営するセンターから発信し、区の政策変更に至るまでの経緯をお話しします。また、ワークショップをとおして身近な防災グッズもお見せします。

※各団体のワークショップの実施時間、場所については別紙ワークショップ一覧をご覧ください。

平成25年度「男女共同参画推進フォーラム」ワークショップ 参加者へのメッセージ

WS NO	団体・グループ名	タイトル	参加者への呼びかけ文
28	NPO法人 男女共同参画おた	成功する男女共同参画事業の進め方 ～パソコンを使った実践講座で広報力大 幅アップ～	「企画はいいのに集客できない」「もっと大勢の市民が参加する講座を企画したい」そんなお悩みを全国の自治体で評判のカリスマプランナーが解消します。市民ニーズのつかみ方、キャッチコピーのつけ方を学び、さらには実際にパソコンを使って魅力的なチラシを作る裏技を伝授します。男女共同参画センター職員におススメのワークショップです。
29	男女共同参画みえネット	新しい公共の場づくりの為のモデル事業 「意思決定の場への女性の参画」促進 応援プラン ～寄ってたかって男女共同 参画を活かしたまちづくり～	男女共同参画みえネットは、2008年、三重県男女共同参画センターの企画運営 サポーターによって発足したグループです。 2011年、三重県が募集した「NPO等からの協働事業提案」に応募し、「意思決定 の場への女性の参画」促進応援プランが、新しい公共の場づくりのためのモデル 事業として採択され、2年間にわたり県内各地で事業を展開しました。これは、県 民、企業、県・市町、大学等、多様な主体が連携協働し、「寄ってたかって男女共 同参画を活かしたまちづくり」に取組んだ事業です。 みえネットの呼びかけに対し、趣旨に賛同した県内5市(四日市市・亀山市・伊賀 市・伊勢市・志摩市)と協働で平成23年10月から平成25年3月まで事業を実施し ました。 5市それぞれにおける男女共同参画の地域づくりに取組んだ2年間の事業の全容 を発表するとともに具体的事例を紹介し、「202030」に向けて全国の皆様と意見 を交換したいと思います。
30	男女平等をすすめる教育全国 ネットワーク	女性の経済的・政治的分野への参画が すすまないのはなぜ?—高等教育の場 から探ぐる—	女性の政治的、社会的分野への参画がすすまないのはどうしてでしょうか?大学 における男女共同参画の実態を話し合うことによって一緒に考えてみましょう。 女性の大学進学率が高まったとはいえ、文系であったり、薬学・医療・介護関係に と偏っています。そうした選択は、高校までの男女共同参画社会教育の中で、家 庭や社会の性別役割分担意識に根付いていたり、また将来の職業とつなげて考 えた時、女性に就職口が開かれていなかったり、子育てしながら仕事を続けること が困難な現状を反映しているのではないのでしょうか。経済的分野での女性の活躍 を期待するには、ワーク・ライフ・バランスの推進、子育て支援制度の充実、社会・ 家族の性別役割分担意識の払拭などの社会的な環境づくりが非常に大切です。 そのためには政策・方針を決定する政治分野への女性の進出が最重要課題で す。大いに討論し合ひましょう。
31	東京男女平等条例ネットワー ク	拠点施設(女性センター)をどう活かすか ～東京からの発信～	東京では、最近、拠点施設(男女共同参画センター)が廃止されたり、男女共同参 画課が「室」や「係」に格下げされてしまった市区があります。地域の行政や議会 の動きにどう対応すればよいのか、実例を挙げて考えます。 一方、市民活動団体が拠点施設の指定管理者となり、男女共同参画の推進に大 きな効果をあげている区もあります。地域の拠点施設を活かすためにどうしたらよ いか、意見交換をしましょう。
32	働く女性の全国センター	『女性の積極的活用? パート・派遣はお きざり?』～均等法から約30年。総貧 困下で、女性の「はたらく」「暮らす」「生 きる」を考える～	1985年に男女雇用機会均等法がうまれて30年近く経ちますが、現在、女性の 非正規労働者は、女性の労働者全体の約54%です。さらに、女性の3人に1人は 貧困に陥っています。男性の収入と比較すれば女性の収入は未だに7割を切る 状況です。現政権では「女性の活用」といわれますが、多くの女性の労働形態で あるパートや派遣の問題を野放しにしたままであれば、「女性の活用」というより、 女性の搾取となってしまう危惧を抱いています。1985～6年は、男女雇用機会均 等法が生まれると同時に、派遣法も成立しました。85年前後の動きは、働く女性 にとっても大きな節目であり、現在の女性の労働状況に深く影響を及ぼしてい ます。だからこそ当時を良く知る元連合女性局長の高島順子さん、「男女雇用平等 法をつくる会」元メンバーの高木澄子さん、その他の方達と共に、均等法成立の歴 史、その可能性と限界を知り、議論を深め、問題を共有し、今後のビジョンを考 えるトークセッションにしていきたいと思います。
33	NPO法人BONDプロジェクト	届かない10代20代の性被害の声	安心できるはずの家庭の中の起きている性暴力、また街の中で起きている性被害。 居場所を失った少女たちは、妊娠、対人恐怖症、自尊感情の低下、自己肯定 感の喪失など様々な困難と接することになります。10代から20代の女性を対象と した相談や面接から見えてくる少女たちの声を報告するとともに、彼女たちが自己 回復するために何が必要かを、皆様と一緒に考えていきます。
34	JAWW(日本女性監視機構)	「ミレニアム開発目標(MDGs)とジェン ダー」	2014年3月にNYで開催される第58回国連婦人の地位委員会(CSW58)の優先 テーマは、「女性と女兒のためのミレニアム開発目標(MDGs)の実施に際しての挑 戦と達成」です。2015年までに達成すべき目標として各国首脳が集まって決定し たMDGsは、「ジェンダー平等と女性の地位向上」への取組みも求めています。女 性貧困層への対応、教育における男女格差の解消、雇用や意思決定過程におけ る女性の増加など、MDGsで取り上げられている課題は、日本で達成されていると いえるでしょうか。国内外の状況に詳しいパネリストからお話を伺い、MDGsの「こ れまで」と「これから」について、一緒に考えましょう。

※各団体のワークショップの実施時間、場所については別紙ワークショップ一覧をご覧ください。

平成25年度「男女共同参画推進フォーラム」ワークショップ 参加者へのメッセージ

WS NO	団体・グループ名	タイトル	参加者への呼びかけ文
35	日本女性学研究会	再考“母娘関係”	ジェンダー論、男女共同参画の視点では、これまでも多くの“母娘関係”について語られてきました。またそれぞれのリアルな経験の中の母娘関係においてはその関係性にとまらざるにさまざまな困難を抱えての生活が存在します。それらの困難は、ジェンダーの問題、支配被支配の関係性の問題、コミュニケーションの問題、年齢や健康の問題、さまざまな側面から見る事ができます。本ワークショップでは、これまで母娘関係についてジェンダーの視点で語られてきた文脈を振り返ったのち、数名がそれぞれの経験から話題提供を行い(介護問題、発達障がいのある娘との関係等)、参加者で話し合う中で、困難の解消に向けての「気楽になれる工夫」を皆で共有していきたいと思ひます
36	日本女性差別撤廃条約NGOネットワーク	「国連は日本に何を求めているのか」	2014年7月までに、日本政府は国連の女性差別撤廃委員会に、国内での女性差別撤廃条約の履行状況について報告を提出することになっています。2009年の同委員会が日本政府に出した「最終所見」にあった多くの勧告に対して、日本は何を実現したのか、何に着手しようと計画しているのかを検証し、国内法とのギャップについて参加者の皆さんと考えます。また、平和構築や女性の安全のために女性の参加やジェンダーの視点を求めた国連安保決議1325を取り上げ、意見交換をいたします。
37	認定NPO法人 女子教育奨励会 (JKSK)	東北と首都圏の女性の交流を通じた女性のエンパワメントと復興活動ー東北復興「結結プロジェクト」報告ー	私たち認定NPO法人女子教育奨励会(JKSK)は、2002年の設立以来、「女性の活力を社会の活力に」を基本理念に、ワークライフバランスや女性のエンパワメントをテーマに研究会、シンポジウム等を開催してきました。2011年5月より東北の女性リーダーと首都圏の専門家女性が協力して復興活動を推進する「結結プロジェクト」に取り組んできました。半年ごとに「車座」交流会(累計5回)を開催し、複数の被災地復興プロジェクトが生まれています。また、2012年8月より東京新聞と連携し「東北復興日記」も連載中です。今回のワークショップでは、2年間の結結プロジェクトを通じ、女性や若者のエンパワメント、東北と首都圏の人々の間の信頼関係がいかに醸成されたか、その結果どのような成果がもたらされたか報告・討議します。また、後半1時間は、これからの復興にどのようなことができるのか、参加者全員でディスカッションを行います。
38	福島県男女共生センター	ふくしまの今～避難者の現状と課題、その支援のありかた～	東日本大震災後2年余が経過しますが、福島県では、原発災害という特異な面を抱え、未だ15万人もの県民が避難生活を強いられており、そのうち5万5千人が県外に避難している状況にあります。原発立地・周辺自治体では、避難区域の再編が行われ、被災自治体の復興計画でも帰還の地域設定や目標年限を掲げるなど、住民の中には「戻る人」と「戻れない、戻らない人」との分断も生じてきています。このように、避難生活が長期化する中で、様々な課題が顕在化してきており、それぞれの生活再建が一層深刻になってきています。根強い風評被害に見られるような震災の「固定化」という反面、震災の風化は確実に進んでおり、こうした福島の実情を発信し続けることが重要であると考えます。そして、被災者の実態を踏まえ、男女共同参画の視点から、各団体や個人、男女共同参画センターが取り組むべき支援のありかたについて問題を提起することにより、他県の皆様とともに、共通の理解に立ったさらなる支援へとつなげていければと願っています。 報告者：戸田典樹 会津大学短期大学部教授 報告者・コーディネーター：千葉悦子 福島県男女共生センター館長・福島大学教授
39	株式会社キャリア・맘	「私らしい働き方、キャリア形成のための第一歩をワールドカフェで探してみませんか？」	キャリア・맘は、全国10万人の主婦の力を最大限に活用したビジネスを展開しています。また、ライフステージに応じた生き方を選択でき、幸せを実感できるようなキャリア形成を後押しし、「自分らしく生きる」女性をさまざまなかたちで応援しています。本ワークショップでは、前半はキャリア・맘がこれまでにやってきた「女性の働く」支援の取組事例や今どき主婦の意識調査結果をご紹介します。後半は、性別や年齢、立場などの垣根を越えたワールドカフェ形式で、「女性の働く」についてみなさんと話し合ってみてほしいと思ひます。「家庭と社会」「妻と夫」「親と子」「上司と部下」など多様な切り口で話し合う中で共通理解を深め、まず自分自身が「今」できることを見つけていきましょう。
40	プロジェクト・パッチワーク	社会企業家という選択ーミッションは子どもが売られない世界をつくるー	NPO法人かものはしプロジェクト理事長の折田草耶香さんをゲストスピーカーに「児童買春の被害に遭い未来を選べない子どもたちを一人でも救いたい」というミッションのもと、カンボジアやインドへと支援を拡げる団体の問題解決のステップとその成果を紹介します。合せて、大学在学中にプロジェクトを創設、現在は2500名のサポーター、100社にのぼる法人会員、250名のボランティアという支援の輪をつくりあげ、日経WOMEN「ウーマンオブザイヤー2006」リーダーシップ部門の史上最年少での受賞など、「社会企業家」としてのキャリア形成の道のりを語っていただきます。

※各団体のワークショップの実施時間、場所については別紙ワークショップ一覧をご覧ください。

平成25年度「男女共同参画推進フォーラム」ワークショップ 参加者へのメッセージ

WS NO	団体・グループ名	タイトル	参加者への呼びかけ文
41	源リウ会	源氏物語に学ぶ男女共同参画	約1000年前、すでに紫式部は源氏物語のなかで男女の問題をテーマにして「人間とは何か」「女だって人間よ」と訴えています。紫式部が源治物語にこめた熱い思いについて共に考え、語り合いませんか。現代社会に於ける男女のあり方を語り合しましょう。
42	ヌエック・ポターノットの会	女性の社会的貢献をかたちにするための学習会	ヌエック・ノットの会は、平成21年、22年に行われた「NVEC男女共同参画プログラム」をきっかけに誕生した学習グループです。みなさんには、「ピーターラビット」で有名なビクトリアス・ポターを取り上げた講座で出会った女性たちが、お互いを尊重し合いつつ、ポターの人生について、作品について学びを深め、気持ちのいい関係をつくることを趣旨とする会です。「ノット」とは、結び目という意味です。ノットの会で生まれたご縁を結んだり、ほどいたりはその自由です。しっかりと結んでもいいし、ゆるやかな結び目にしてもいいと、お互いの意思を尊重します。私たちは、学びを継続すること、そして学びを通じてお互いに啓発し合うことを大切に考えています。そして、学んだことを自分の地域に持ち帰り、男女共同参画を広げるための活動につなげたいと考えています。私たちは、お茶を飲みながら対話するティーラウンジ型学習会を行っています。「ピーターラビットのおはなし」を通じて「学びあい、実践し、交流する」活動をご一緒しませんか。
43	一般社団法人 国際女性教育振興会	海外から学びキャリアアップ～スウェーデン、フランス、などを視察して～	急速に進むグローバル社会に対応して生きていく判断力を身につける体験的海外視察研修を目指しています。その経験が様々な仕事や社会活動に、どう活かされているか、のモデルを提示します。人生のどのステージにあっても、必ず自己実現に役立つ研修です。
44	国立女性教育会館理事長 内海 房子	《一般企業におけるダイバーシティ・マネジメントを学ぶ》～本質を学ぶ・データに学ぶ・他社に学ぶ～	グローバル競争の中にある日本の多くの企業では、今、ダイバーシティ・マネジメントが必要と言われていています。NVECでは、昨年度から、企業向けの研修に取り組み、ダイバーシティについて学んでまいりました。第一回目のセミナーでは、シカゴ大学の山口一男先生をお招きして、ダイバーシティの本質について学びました。2回目は埼玉県経営者協会との共催で、大宮で開催しましたが、ここでは、ダイバーシティに関する様々なデータから、日本が直面している現況について学びました。続く3回目は、ダイバーシティに積極的に取り組んでいる3社の事例発表を聞き、実際の企業での具体的な取り組みについて学びました。本WSは、これまで学んだことを整理し、これから各企業は、あるいは一人一人は何をすべきかについてみなさんと議論したいと思えます。